

30代から生理の約2週間前、首の付け根が凝り、吐き気も伴うようになりました。生理の影響と思い市販の鎮痛薬を飲むと改善しますが、54歳で閉経後は月に2、3回起きるようになりました。治す方法はないでしょうか。受診は何科がいいのでしょうか。(55歳、女性)

首の凝りや吐き気



岩本真理子医師

ご相談者が思われているのは月経前症候群(PMS)のことでしょう。月経開始の3〜10日ほど前から始まる精神的あるいは

動が関わっていると考えられています。排卵から月経までの間にエストロゲンとプロゲステロンという女性ホルモンが多く分泌され、月経前にこれらが急激に低下し、脳内のホルモンや神経伝達物質の異常を引き起こすことが原因とされています。また疲労やストレスなど、いくつ

診断はこのような症状が月経前に毎月現れ、月経開始後には和らぐことが特徴的です。一方で、40代以降は女性ホルモンの分泌が急激に減少。PMSの症状は徐々に落ち着き、閉経を迎える50歳前後にはなくなります。

は更年期症状が疑われます。加齢に伴う首の骨の変形などでも凝りが出現することがあるため、整形外科や婦人科でご相談ください。
(兵庫県産科婦人科学会、岩本真理子II神戸市中央区、パルモア病院産婦人科)
◇第1、3、4日曜に掲載します。

更年期障害の疑い、婦人科へ

は身体的症状で、月経開始とともに減弱または消えるものがあります。さらに抑うつ・いらいらなどの精神症状が主体で、強い場合には月経前不快気分障害(PMD)と呼ばれ、精神疾患の一つとされています。原因ははっきりとは分かっています。女性ホルモンの変

もの原因が影響し合ってPMSは引き起こされます。症状は、乳房の張りや痛み、頭痛腹痛腰痛、むくみなどの身体的症状から、情緒不安定、抑うつ、不安、睡眠障害、食欲不振・過食、めまいなどの精神神経症状までさまざまです。

律神経の乱れによるめまいや倦怠感、不眠など、更年期障害の症状が始める時期でもありません。更年期障害はPMSのような周期性はなく、断続的に症状が出て時期がくれば終わります。

ご相談者の場合は、更年期に入っており、PMSというより